

平成 29 年度 事業報告

会計監査人導入後初めての決算となり、1年を通して多摩、はちおうじ両事業所の監査対応を行いました。中期目標である新センター建築の資金作りが必要であり、安定した経常利益を上げるためにアクションプランに基づき各事業を行いました。雇用に関しては紹介業者なども利用し、平成 30 年 4 月に医師の常勤採用多摩 2 名、5 月に 1 名、はちおうじ 2 名を迎えることが出来ました。看護師、介護福祉士の採用に関しては充足している状況ではなく、引き続き対応が必要となります。

【島田療育センター多摩】

平成 29 年度の方針

療育を見つめ直し組織力の強化、経営の安定化を図る

① 健全な財務体制の構築

会計監査人の設置により、外部監査法人を導入し改正社会福祉法対応の財務体質構築、サービス区分毎の収入、支出管理方法の構築を図る。

② 接遇の向上

利用者からの苦情、満足度調査の結果を受け、全職員の接遇向上に努める。

③ 業務の見直しを図る

無駄をなくし業務の効率化、簡素化を図る。

④ 人材育成と組織力の強化を図る

目標管理制度を継続し、職員の資質向上を図る。

人材育成指針に基づく計画的な研修を企画・実施し、効果測定により適切な評価を行う。特にコミュニケーションスキルなどの基本を見直し、組織人としての基盤を強化する。

⑤ 新センター建築計画の構築

平成 30 年の診療報酬改定を見据え、建設に関するコンセプトを構築していく。

(1) 健全な財務体制の構築

会計監査人導入により、年に5回の訪問を受け細かい財務状況、帳簿等の確認を行いました。まだまだ改善する部分も多く有る為、報告書を見ながら今年度以降改定が必要であります。

サービス区分別の収支分析も毎月経営責任者会議にて報告し、経営幹部の意識の向上を図りました。支出についても税理士のアドバイスを受け、少しずつ按分方法の構築を進めているところです。また、会計ソフトの入替を行いましたので、より分析しやすく業務効率を図る工夫を平成30年度に向けて行う予定です。

(2) 接遇の向上

学術研究研修部が中心となって、専門家による管理者の接遇研修を行い、新職員研修でも接遇に時間をかけて行いました。

中核職員にも再度療育部で作成している「マナーのいろは」の配布を行い、各自再確認をしてもらいました。

(3) 業務の見直しを図る

平成27年度から継続の方針です。平成29年度はオーダリングを導入し、平成30年3月より運用を開始し始めました。導入まで半年と短い時間だったので、引き続き経営企画室を中心とした「オーダリング検討委員会」の中で各部の調整を行って、より効率化を図る予定です。

(4) 人材育成と組織力の強化を図る

学術研究・研修部を中心に年度内に院内で行われる各委員会の研修等の調整を行いました。学会へ発表する為の倫理研修、接遇、目標管理に伴う運用研修、社会福祉法人で働く職員としての福祉の心等、全体に係る研修の実施を行いました。また、外部研修へ参加した際、学んできた事を報告しやすいように随時報告書の改定も行いました。全体研修ではアンケートを実施し、講義の評価等も行っています。

(5) 新センター建築計画の構築

経営企画室で、最近建替えた施設、建て替えを検討している施設への訪問を実施、その後島田療育センター集談会での発表、報告会の実施、また

冊子の作成を行い、各部署での新センター(案)の参考にしてもらうため配布を行った。また、建築に関する流れの勉強会、建築に伴う資金の流れの勉強会等、経営企画室を中心に行いました。さらに多摩市と連携し平成30年度に行う地籍調査の準備を行いました。

外来では顧客満足度調査を平成28年度より引き続き行い、顧客満足度への職員の意識が高まっています。

(6) その他

防災危機管理対策委員会では、消防計画の見直し、本部機能の、マニュアルの見直しを実態に沿ったものに変更を開始しました。

毎月実施の消防訓練の他、10月4週目の土曜日は地域との防災訓練を行い、10月4週目日曜日には多摩医師会主催の医療連携防災訓練に参加しました。また平成30年3月に清水建設とBCP訓練を行い、災害時の連絡先の確認等を行いました。

安全衛生委員会では、ストレスチェックに関して講習会等を実施し、全職員が受検するよう啓蒙を行いました。受検率は61%と昨年より低く、その内、面談対象者は8%と昨年より多い結果となりました。

新たに看護師の衛生管理者を選任し職場環境の巡視を2名体制で行っています。

苦情解決委員会は、隔月に開催し苦情に対応致しました。6月には第三者委員をお呼びして前年度の苦情の報告を行いました。29年度は苦情総件数8件でした。

医療安全管理委員会は、毎月の委員会開催、事故報告、ヒヤリハット等の分析を行い、年に2回の講習会を実施しました。

院内感染委員会は、毎月の委員会開催に加え、ICTラウンドの実施と報告を行い、こまめに手指消毒など衛生管理のチェックも行っています。また、医療安全管理委員会同様、年2回の講習会を実施しました。

(7) センター内設備の整備

(ア) 栄養科ブラストチラー新規購入

一般社団法人東京馬主協会様より1,330千円助成して頂き自己資金1,046千円にて栄養科ブラストチラーを新規に購入しました。

(イ) 介護リフト設置

社会福祉法人清水基金様より 5,000 千円助成して頂き、自己資金 2,277,580 円で、第 2 病棟、第 5 病棟に介護リフトを導入しました。

(ウ) 施設・整備修繕

①空調、室外機等点検、修繕部品交換等経年劣化による不具合

5,440,932 円

②第 3 病棟床張替え 2 期工事

1,026,000 円

③病棟関係修繕

2,056,320 円

④職員休憩室畳張替え

500,000 円

(8) 各部署アクションプランの報告

外来の新患数は小児科医師の減員により当初低く目標を設定していましたが、結果的に 472 名達成となりました。ブース利用率平均は 60%~70%となっています。

ご利用者が重症心身障害児という事もあり、急なキャンセルも多く今後、診察室の稼働率を上げる方法の検討が必要です。

歯科に関してはアクションプランで掲げていた新患数 80 名に対して 72 名と未達成でしたが、収入は 45,000 千円の目標に対して 45,707 千円と達成しています。

リハビリの収入は数字としては昨年より外来で減収、病棟では若干の増収、全体で約 20,000 千円減少となっています。職員数、育児休業職員の人数に変化はございませんので、原因として新患が減った事による診療からのオーダーが減った事、新職員はまだ外来を行っていない事が考えられます。平成 30 年度は新職員も 2 年目となり外来を行う、また小児科医師が増えた事によるオーダーを増やし、訓練数をあげていく事が課題となります。療育部のサービス推進費収益（腹臥位の取り組み）に関しては昨対比+532 千円となっております。

施設内特別活動支援加算は 2,490 千円となっております。

短期入所の稼働率は平成 29 年 10 月に 3 床の東京都枠を一時休止にした事により 49.6%となっています。デイケアセンターの稼働率は幼児部が 57.1%、青年部が 75.6%となっています。

支援部が行っている、地域支援、委託事業、訪問事業に関して国の政策は在宅に移行している事もあり、ニーズがあります。訪問診療に関して今年度収入の伸びもありましたが、事業維持をしていく為に島田療育センターの方向性を定める事も今後の課題となります。

業務委託業者の月額の見直しを行い、3 業者の入替を来ないランニングコストの削減を図りました。

平成 30 年度もコスト意識をもって各事業に取り組むとともに、ご承認いただいている事業計画が順調に実行されるように努力致します。

(9) 第三者評価による事業者調査、利用者調査の実施

平成 29 年度は、特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構による事業者調査、利用者調査を入所事業に関して行いました。

(10) 地域との交流

多摩近隣地域病院・診療所・施設の事務方情報交換会に参加し、顔の見える繋がりを、継続している。また多摩市社会福祉協議会主催のネットワーク連絡会において、地域貢献の取り組みを検討し、平成 29 年度から一部施設の貸し出しを開始しました。

【島田療育センターはちおうじ】

平成 29 年度の方針

外へもう一步踏み出し、個々のレベルアップを目指す

- ①外部交流を通じて自らの立ち位置を意識し、業務の質を高める
- ②利用者満足度調査のポイントを上げる
- ③業務の効率を図る
- ④センター内外の研修と研究・発表を通じて専門性を高める

<総括>

開設後 7 年を経過し、療育診療・小児診療ともに利用児者延べ人数は前年並みとなり診療所の規模としては受け入れ状況の上限に達してきていると考えます。職員数も常勤非常勤合わせて 80 名（開設時 55 名）となっています。事業は、診療部門（療育診療・小児診療）・発達支援部門・通所部門の 3 事業を実施しており、各部門とも順調に事業展開できています。診療部門については、療育診療（障害児者診療）の新患受け入れ数目標を 29 年度は 600 人とし、623 人を受け入れて目標数に達しました。小児診療の新患も 1,000 人を超えました（1,024 人）。診療部門の課題は、療育診療の新患待ちが 7 ヶ月～9 ヶ月待ちになっていることです。発達支援部門は診療の枠組み以外の事業として相談事業・療育事業・普及啓発事業・施設支援事業等を行っており、各専門職種が協力して、地域のニーズに応えた事業を実施しました。在宅重症心身障害者（18 歳以上の方）支援の通所部門は利用者総数 24 名（定員 30 名）となり、その内 16 名が超・準重症者）で医療的ケアの業務量が増えており、医ケア業務と日中活動の業務配分、人的手配の兼ね合いが課題となっています。

（1）外部交流を通じて自らの立ち位置を意識し、業務の質を高める

機関連携として「ケース会議」「八王子市子ども家庭支援センター・保健センター連絡会」「近隣各市町村通園機関・施設間連絡会」「八王子市日中活動支援事業者連絡会」「通所施設連絡会」の開催・参加を継続し、地域交流では「台町四丁目祭りへの参加」「第七小学校との交流授業」「市内野球チームとのイベント交流」を行いました。人事交流では通所部門において、職員の他施設研修や島田療育センター多摩の通所職員との職員交換交流も行いました。

また、見学・実習・研修を各部署で積極的に受け入れ、見学者は 122 人、実習・研修は 59 人、ボランティア登録は 47 人でした。

(2) 利用者満足度調査のポイントを上げる

外来利用者満足度調査は外部業者に依頼し、開設時から継続して実施している。「応対」「時間」「設備」について調査を行い、「応対」については、医師、看護師、受付、リハビリと各職員別に回答を求めました。

「対応」面は、全体で平均 99.4%（昨年度 98.9%）が満足と回答し、昨年度より 0.5%ポイントを上げることができました。職種別では受付事務対応面が 1.4ポイント上がり（99.8%が満足と回答）最も上昇しました。その他の職種は医師対応面が 98.8%（前年と同じ）、看護師対応面が 99.6%（前年度より 0.2ポイント上昇）、リハビリ対応面が 99.3%（前年度より 0.5ポイント下降）でした。

「時間」面は、91.6%が満足と回答しているものの、「診察の待ち時間が長い」といったご意見が多く、引き続き運用面の検討と利用者様への声かけや丁寧な説明対応が必要と考えています。「設備」面は、98.6%が満足と回答し、「ゴミ箱の設置」や「駐車場の屋根の設置」などの要望があり、検討課題と考えています。

(3) 業務の効率を図る

作成文章の簡略化、少し朝早く出勤してデスクワークを行う、会議の省略と時間短縮等を職員一人ひとりが考えて実施しています。業務量や作業能力等に個人差もあるため、できるだけ業務の均衡化を図るように配慮していきます。

(4) センター内外の研修と研究・発表を通じて専門性を高める

学会発表は医師 10 回、リハビリ 3 回（PT2、ST1）、看護師 1 回、コーディネーター1 回、介護福祉士 1 回、発表しました。論文等紙上発表は医師 16 回、リハビリ 4 回（PT1、OT1、ST2）コーディネーター1 回でした。日常業務に加え、各職場で努力しており、今後も継続していきます。

内部研修として、外部又は内部講師による職員研修を 29 年度は 19 回実施しました。外部研修・学会には各職種で述べ 27 名が参加し、参加者は内容について伝達講習を必ず行いました。

【平成 29 年度利用概況】

平成 29 年度も外来診療事業および発達障害児支援事業、重症心身障害者通所事業を円滑に実行することができました。利用児者延べ人数は療育・小児ともに、前年度並でした。利用者様満足度調査では、今年度も利用者様対応面は、医師、看護師、リハビリ、受付とも 98%以上の満足度を得られました。

平成 29 年度の実績は以下の通りです。

- (1) 利用児者延べ人数は 50,193 人（前年度 50,043 人）、療育診療（障害児者診療及びリハビリ）が 28,907 人（前年度 28,793 人）、小児診療（小児科診療）が 21,286 人（前年度 21,250 人）でした。前年度と比べると療育（リハビリを含む）療育診療が 114 人増、小児診療が 36 人増、全体で 150 人の増加となりました。また、療育診療の新規利用児者は 623 人（前年 758 人）、小児診療の新規は 1024 人（前年度 993 人）でした。
- (2) 療育診療の新規利用児者は未就学児が全体の 66%（前年度 55%）を占め、続いて小学生が 26%（前年度 29%）、中学生以上が 8%（前年度 16%）となりました。新規利用児者の年齢別構成比については、29 年度は未就学児の比率が前年度より 11%上がり、一方で、小中学生の比率が下がりました。地域別では八王子市在住の方が全体の 80%（昨年度 78%）と最も多く、次いで、日野市、相模原市、町田市の順でした。
- (3) 療育診療における新規利用児者の診断別内訳では、前年度と同様に自閉症スペクトラム障害（ASD）が 32%と多く、続いて、注意欠陥多動障害（ADHD）、言語発達遅滞、知的能力障害、の順でした。新規の主訴は、行動面を主訴とする利用児が最も多く、続いて、「ことばの遅れ」「学習」「運動発達の遅れ」です。紹介元は、保健センターからの紹介が最も多く、次いで、医療機関、学校、保育園・幼稚園の順になっています。新規外来利用児者の待ち期間は、7～9 ヶ月待ちです。
小児診療の新規数は昨年度より若干増えました。診療に加え、各種予防接種、乳児健診を行っています。けいれん外来や子ども相談外来といった専門外来も継続しており、療育外来を利用している子どもさんの感冒診察や予防接種も行っています。平成 29 年度は BCG 予防接種も同時接種が可能となりました。医療検査の総件数は 6,409 件、また、放射線撮影検査数は 1,200 件でした。
- (4) リハビリテーション科では、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、心理の個別評価・指導を中心に実施しています。新規は理学療法 48 件、作業療法 403 件、言語聴覚療法（摂食を含む）313 件で、心理検査は 583 件を実施しました。

- (5) 発達障害児支援事業（からふる）では、相談事業（電話相談、直接面談、専門家相談）や療育事業（小集団指導など）を行い、未就学児小集団指導の総利用児述数は 817 人、就学児小集団指導では、不登校グループ指導に加え、読み書きグループや運動が苦手な子のグループ指導を行い、総利用児述数は 234 人でした。普及啓発事業として保護者や療育機関の職員、教職員向けの講習会を実施し、延べ 271 人の方々の参加がありました。施設支援は、八王子市内の保育所巡回発達相談を 34 件、都内の幼稚園・保育園・小中学校への施設支援を 33 件行いました。
- (6) 機関連携では、29 年度も関係機関とのケース会議を 33 件（前年 52 件）実施しました。重症心身障害児者の在宅支援として行っている衛生材料や医療機器の管理・調整は 48 件（前年 55 件）でした。見学者や研修・実習、ボランティアも積極的に受け入れ、見学者は 122 人（前年 119 人）、研修・実習者 59 人、ボランティア登録は 47 人でした。
- (7) 通所事業は 29 年度 4 人が新規に登録し、2 名が退所、総数 24 人（内 16 名が超・準超重症者）となりました。平均出席人数は 15 人/日で、出席率は 76%（前年度は 71%）でした。開かれた施設であることを念頭に、介護実習生の受け入れ、関係者会議による他機関連携、特別支援学校生の体験実習、島田療育センター多摩をはじめ他施設との人事交流を積極的に行いました。

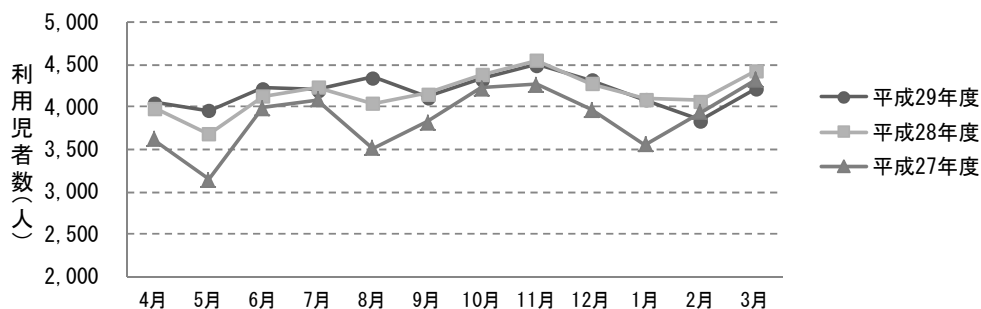
【平成29年度主な実績】

(1) 利用児者数の推移

①全体

全利用児者数の推移

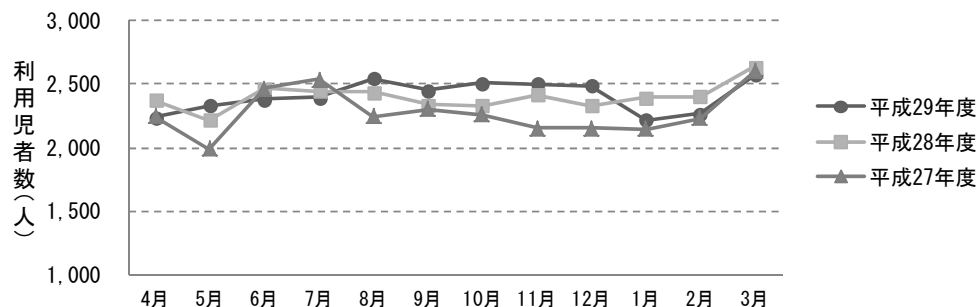
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 平成29年度 | 4,057 | 3,955 | 4,224 | 4,199 | 4,354 | 4,120 | 4,327 | 4,501 | 4,320 | 4,086 | 3,841 | 4,209 | 50,193 |
| 平成28年度 | 3,989 | 3,681 | 4,130 | 4,231 | 4,042 | 4,161 | 4,380 | 4,550 | 4,281 | 4,096 | 4,075 | 4,427 | 50,043 |
| 平成27年度 | 3,625 | 3,145 | 3,993 | 4,090 | 3,512 | 3,826 | 4,228 | 4,267 | 3,968 | 3,557 | 3,940 | 4,325 | 46,476 |



②療育診療

療育診療利用児者数の推移

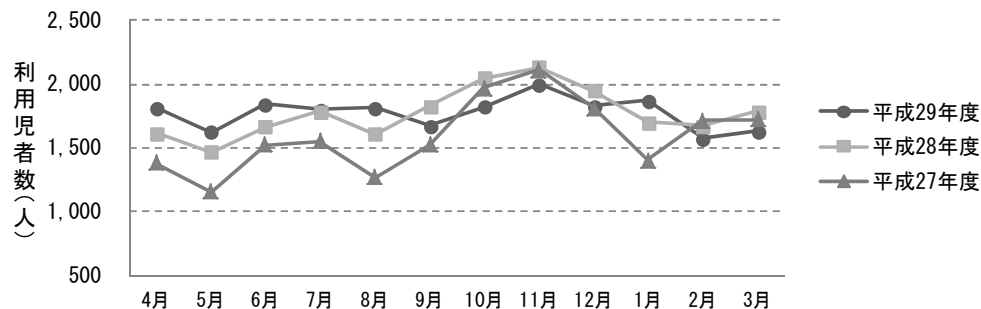
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 平成29年度 | 2,241 | 2,334 | 2,380 | 2,397 | 2,544 | 2,449 | 2,508 | 2,504 | 2,489 | 2,215 | 2,270 | 2,576 | 28,907 |
| 平成28年度 | 2,373 | 2,215 | 2,468 | 2,448 | 2,435 | 2,337 | 2,331 | 2,418 | 2,334 | 2,395 | 2,400 | 2,639 | 28,793 |
| 平成27年度 | 2,243 | 1,988 | 2,466 | 2,539 | 2,246 | 2,304 | 2,257 | 2,155 | 2,156 | 2,150 | 2,229 | 2,601 | 27,334 |



③小児診療

小児診療利用児者数の推移

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 平成29年度 | 1,816 | 1,621 | 1,844 | 1,802 | 1,810 | 1,671 | 1,819 | 1,997 | 1,831 | 1,871 | 1,571 | 1,633 | 21,286 |
| 平成28年度 | 1,616 | 1,466 | 1,662 | 1,783 | 1,607 | 1,824 | 2,049 | 2,132 | 1,947 | 1,701 | 1,675 | 1,788 | 21,250 |
| 平成27年度 | 1,382 | 1,157 | 1,527 | 1,551 | 1,266 | 1,522 | 1,971 | 2,112 | 1,812 | 1,407 | 1,711 | 1,724 | 19,142 |



(2) 利用児者の初再診人数と年齢別内訳

| 利用児者の年齢別内訳 | | | | |
|------------|------|-------|--------|-------|
| 年齢別 | 初診件数 | | 再診件数 | |
| | 療育診療 | 小児診療 | 療育診療 | 小児診療 |
| 0歳 | 11 | 642 | 22 | 364 |
| 1歳 | 23 | 859 | 205 | 699 |
| 2歳 | 61 | 609 | 420 | 577 |
| 3歳 | 96 | 557 | 971 | 518 |
| 4歳 | 86 | 457 | 1,679 | 610 |
| 5歳 | 88 | 411 | 2,419 | 489 |
| 6歳 | 46 | 294 | 1,960 | 393 |
| 未就学児合計 | 411 | 3,829 | 7,676 | 3,650 |
| 小1 | 32 | 181 | 1,159 | 383 |
| 小2 | 40 | 159 | 1,011 | 403 |
| 小3 | 32 | 147 | 1,035 | 344 |
| 小4 | 31 | 104 | 962 | 283 |
| 小5 | 15 | 71 | 913 | 209 |
| 小6 | 11 | 68 | 645 | 185 |
| 小学生合計 | 161 | 730 | 5,725 | 1,807 |
| 中1 | 21 | 36 | 514 | 136 |
| 中2 | 15 | 43 | 383 | 136 |
| 中3 | 13 | 21 | 312 | 121 |
| 中学生合計 | 49 | 100 | 1,209 | 393 |
| 高1 | 1 | 15 | 265 | 88 |
| 高2 | 1 | 14 | 204 | 86 |
| 高3 | 0 | 9 | 166 | 64 |
| 高校生合計 | 2 | 38 | 635 | 238 |
| 19歳 | 0 | 1 | 183 | 57 |
| 成人 | 0 | 196 | 1,147 | 412 |
| 合計 | 623 | 4,894 | 16,575 | 6,557 |

*件数は実人数

(3) 利用児者の地域別内訳

| 地域 | 初診利用児者 | | 再診利用児者 | |
|------|--------|-------|--------|-------|
| | 療育 | 小児 | 療育 | 小児 |
| 八王子市 | 498 | 4,667 | 12,946 | 5,921 |
| 日野市 | 51 | 50 | 1,489 | 210 |
| 町田市 | 15 | 15 | 427 | 71 |
| 相模原市 | 16 | 9 | 332 | 28 |
| その他 | 43 | 153 | 1381 | 327 |
| 合計 | 623 | 4,894 | 16,575 | 6,557 |

*その他とは、多摩市・昭島市・稲城市・あきる野市・山梨県・埼玉県など。

(4) 療育診療科目別初診件数

| 診療科目 | 初診件数 |
|----------------------|------|
| 児童精神科 | 137 |
| 神経小児科 | 486 |
| リハビリテーション科 (補装具診を含む) | 39 |
| 摂食外来 | 35 |
| 総合評価外来 | 72 |
| 遺伝外来 | 4 |
| 合計 | 773 |

*重複あり

(5) 療育診療の初診診断別内訳

| 診断別内訳 (療育診療新規利用者) | | | |
|---------------------|-----|--------------|-----|
| 自閉症スペクトラム障害 | 199 | 點頭てんかん | 1 |
| 注意欠陥・多動症/注意欠陥・多動性障害 | 173 | 幸福顔貌骨異形成症 | 1 |
| 言語発達遅滞 | 55 | stickler症候群 | 1 |
| 知的能力障害 | 44 | 奇形症候群 | 1 |
| 構音障害 | 31 | 転換性障害 | 1 |
| 学習障害 | 18 | 滑脳症 | 1 |
| 運動発達遅滞 | 10 | 新生児脳梗塞 | 1 |
| 境界知能 | 8 | 脊髄脂肪腫 | 1 |
| 吃音 | 8 | 脳梁欠損症 | 1 |
| ダウン症候群 | 7 | 神経症・不安障害 | 11 |
| 協調性運動障害 | 7 | 愛着障害 | 4 |
| 脳性まひ | 6 | 適応障害 | 3 |
| 発達遅滞 | 6 | 選択性緘黙 | 2 |
| 表出性言語障害 | 5 | 睡眠障害 | 2 |
| 摂食機能障害 | 2 | チック・トゥレット症候群 | 2 |
| 低酸素脳症後遺症 | 2 | 反抗挑戦性障害 | 1 |
| 水頭症 | 2 | 統合失調症 | 1 |
| 脳炎後遺症 | 2 | 正常発達 | 2 |
| コミュニケーション障害 | 1 | | |
| | | 合計 | 623 |